

令和6年度 第2回霧島市子ども・子育て会議（会議要旨）

| | | | | |
|--|-----|---|------|----|
| 開催日時 | | 令和6年7月25日（木）18:30～20:40 | | |
| 開催場所 | | 霧島市役所別館 4階 大会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 呉屋 奈都子、若松 忠洋、江川 さおり、田間 美沙緒、前野 二美、新田 瑠璃子、西川 純子、小野 由美子、白木川 拓巳、山下 真奈美、田中 紗弥佳 （11名） | | |
| | 事務局 | 有村 保健福祉部長、宮田 保健福祉政策課長、大浦 同課こども政策室長、小玉 同課同室主任主事、安増 同課同室主事、村岡 子育て支援課長兼こどもセンター所長、小橋 同課主幹兼子ども・子育てグループ長、種子田 同課同グループサブリーダー、中村 同課保育・幼稚園グループ長 稲留こども・くらし相談センター主幹兼相談・支援第2グループ長、石原障害福祉課主幹兼障害福祉グループ長、中島こども発達サポートセンターグループ長、赤水健康増進課健康づくり推進グループ長、上小園同課主幹兼保健予防グループ長、坂口すこやか保健センター主幹兼地域保健第2グループ長、亀石こどもセンター副所長、吉永子育て支援課保育・幼稚園グループ主査 鹿児島みらい研究所 小久保主任研究員 （18名） | | |
| 欠席者 | | 山口 義幸、中元 由紀代、高倉 哲也、山尾 実礼 （4名） | | |
| 公開・一部非公開又は非公開の別 | | 公開 | 傍聴人数 | 0人 |
| <p><u>会次第</u></p> <p>1 開会</p> <p>2 協議等</p> <p>（1）第2期霧島市子ども・子育て支援事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の点検・評価 ・第2期（令和2年度～6年度）の振り返り評価 <p>（2）ニーズ調査のクロス集計・自由意見の報告について</p> <p>（3）若者の少子化等に対する意識調査の取組状況について</p> <p>（4）霧島こどもみらいサミット（ワークショップ）について</p> <p>（5）その他</p> <p>3 閉会</p> | | | | |

【会議要旨】

1 開会

2 協議等

(1) 第2期霧島市子ども・子育て支援事業計画について

- ・【資料1】を用いて、第2期霧島市子ども・子育て支援事業計画（以下、「第2期」という。）令和5年度の点検・評価について事務局から説明を行う。
- ・全委員に意見を求める。

主な意見等

【病児・病後児保育事業について】

- ・令和6年度目標値が令和5年度実績値に対して低い理由はなにか。
→目標値は、第2期霧島市子ども・子育て支援事業計画を策定したときに、過去の実績をもとに作成したものである。当初、想定していたよりも令和5年度の利用者が多くなったと思われる。

【母子健康事業について】

- ・母子手帳アプリについてだが、最初に登録した以降、利用者が少ない。市で使われることがないと活用されない。小児科、産婦人科等の医療機関と連携することで利用が深まり、情報が届かない人にも届くようになるのではないか。
→情報提供のみのアプリになっているが、今後は、令和8年以降に向け、予防接種や母子健診等の情報等、医療機関と連携していくことを国が検討しているため、市としても検討していきたい。

- ・【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】を用いて、第2期の振り返り評価について、事務局から説明を行う。
- ・全委員に意見を求める。

主な意見等

【一時預かり事業について】

- ・キッズパークきりしまの営業時間が21時までだったが、19時までとなった理由は何か。ニーズがなかったのか保育士の確保が難しかったのか。
→保育所等の増に伴う利用人数の状況、保育士の確保、事業の運営等を踏まえ、営業時間を短くしたと聞いている。

【幼児教育アドバイザーの配置・確保について】

- ・次期計画から除外するかどうか市の判断になると思うが、鹿児島県は幼児教育センターの設置や、幼児教育アドバイザーの配置・育成等に取り組んでいる。
→市としても、国や県の情報も踏まえながら、改めて情報収集をしたいと思う。

【経済的な支援の充実について】

・市において、貧困に関わる環境、教育を受けにくい、進学していく中で、貧困に関するデータ等があれば、教えてほしい。どのくらい貧困問題が市にあるのか。

→同様の支援については、新制度に移行した幼稚園の幼児に対し、制度に基づき副食の免除を実施している。市全体については、子ども・子育て支援事業計画の中に、子どもの貧困対策を踏まえた上で、こども計画を包含し、策定していく。

(2) ニーズ調査のクロス集計・自由意見の報告

・【資料3】を用いて、鹿児島みらい研究所から説明を行う。

・全委員に、意見を求める。

主な意見等

・自由意見を、どうやって実現していくのかが見えない。どの意見が優先的に選ばれていくのか。一番ニーズの多い公園や遊び場、医療費等にお金を投じていく方向なのか。

→計画を策定するにあたり、福祉部門だけでなく、全庁的、横断的に取り組んでいる。副市長をはじめとする庁内検討委員会で情報共有をしながら、どういう進め方をするのが今後の議題になってくるかと思う。

・不登校の人たちの居場所がないと感じていたため、なにか良い居場所があれば良いと思っている。

→不登校のことなどは、教育委員会と連携を図っていく必要がある。居場所の考え方は人それぞれであり、国の指針等にも基づき、検討していかなければならない。

・こども食堂を個人的にしている人たちやイベント等もある。このような情報が、不登校の子たち等にいくように、実施している民間企業と市が連携できたらいいと思う。

・自由意見で、「小規模校を統合して大きい学校にした方が良い。」とある。統合した方が良いという保護者の意見が多いようであれば、優先しても良いと思う。

→教育委員会と情報共有しながら検討していきたい。

・地域の人たちにとっては学校がなくなると寂しいという意見も聞くためなかなか難しいと思う。

→運営に経費がかかるのも事実である。地域の意見、保護者等の意見など、総合的に考えながら、教育委員会も検討していく形になると思う。

・子どもの将来を考えると、中学高校でかなり経済的な負担も多くなるため、子ども手当の額は、小さい頃が少なく大きくなったら多めが良いという自由意見がある。市独自で事業するのは難しいが、こういった意見も視野に入れて良い方向にもって行ってほしい。

→子ども手当については、児童手当法が改正され、令和6年10月から第3子以降の手当額が一人あたり3万円になるという形で進んでいるところ。国の制度に基づき、手当

を支給しているため、市独自で調整することが難しい。貴重な意見として受け止めた
い。

・牧園小学校の横断歩道が消えかかっている箇所があるので白線の引き直しをお願いし
たいという意見があるが、こういった意見はすぐに対応できるのではないかと。

→自由意見については、庁内で共有し、状況を見ながら対応させていただく。

(3) 若者の少子化等に対する意識調査の取組状況について

・【資料4】を用いて、事務局から説明を行う。

・全委員に、意見を求める。

主な意見等

・調査は霧島市だけが実施しているのか。国、県でも実施しているのか。

→霧島市独自の調査になるが、鹿児島市も似た内容の調査を実施予定であり、参考に
しながら実施した。

・調査の情報について、どのくらい公開されるのか。今後、実施予定の鹿児島市と比較
するものなのか。

→HP 等で結果を公表する予定である。

国が令和3年度、鹿児島県が令和5年度に実施しており、霧島市の設問は、それら
をベースに独自の設問を加えているため、比較できる部分については比較し、報告す
る。

・調査の実施方法については、今後も変えていかないのか。回答率が低い、改善点と
してはどう考えているのか。

→今回、予算の関係上 Web 回答だけで実施したため回収率が下がった。概ね2割の回
収率になるが、統計上は信頼度が確保されている。今後、回収率の向上に努めてい
く。

・回収率が低いと公費の無駄と感ずる。病院等の施設に掲示した方がコスト削減にな
る。答えた人に御礼物を送る等にお金をかけた方が良い。無作為に送るのではなく、学校
や会社、病院に送って回答をもらうとか。

→今回の調査対象は高校生から29歳以下の子どもがいない者と限定しているため、
無作為に人口抽出して郵送した分母数を把握しないと、回答率がわからない。課内で
協議した結果、今回は施設に掲示する等の方法は実施しないこととなった。

・平等性公平性を求めるアンケートを実施するにあたって、無作為に送ることは今回良
かったと思う。同じ高校、同じチーム等に送ると、似通った結果が出てくるとするた
め、いろいろな状況に合わせてアンケートをすることも必要だと思う。

(4) 霧島こどもみらいサミット（ワークショップ）について

- ・【資料5】を用いて、事務局から説明を行う。
- ・全委員に、意見を求める。

主な意見等

・学校が違う知らない人と関わりを持つ部分でも、小中学生も、ワークショップのような場で発言ができることを、これから考えていただきたい。

→小中学生を対象に実施している自治体もあるため、参考にしながら今後考えていきたい。

・3つのテーマを決めた理由はなにか。何を目的として、どのような意見を引き出したのか。

→「①男性が育児に関わりやすくするためには？」については、ニーズ調査で女性より男性の方が育児休暇をとっていない等が明らかであり、そういったことを、若者目線でどう意識しているのか、どういった意見があるのかを聞きたくてテーマを設定した。

「②若い世代が結婚するきっかけづくりとは？」については、世間的に晩婚化、未婚化が増えている中、少子化対策に繋げるためには、どういった意見が出てくるのか聞きたくてテーマ設定した。

「③若者が住みたいと思える魅力あるまちとは？」については、若者が住み続けないと少子化対策に繋がらないと考え、県外に就職したが最終的に霧島市に戻ってくるためには、どういったものがあれば良い、と考えているかを聞きたくて設定した。

・参加者にテーマを与え、考えてもらって意見を聞くということになるのか。

→テーマについては、事前に学校を通して参加者に伝えており、ファシリテーターが参加者の意見をうまく引き出しながら導いていく形となる。

・他の調査の進捗状況について把握したい。

→「子どもの生活状況調査」については、小学校5年生と中学校2年生の全員が対象の調査であり、学校を通じて回答を得たため、全体で約8割以上の回収率である。結果については次回報告する。保護者と紐づけた調査を実施しているため、子どもの貧困に関わる分析もできるため、これらも報告する。

「教育・保育施設等の調査」については、子育てニーズの需要量の把握や今後の事業展開等を調査することに加え、子どもの状況や、市に対する意見等を聞いている。

(5) その他

その他 なし

3 閉会